

## ～今月の花木～



**オオデマリ 大手毬**

スイカズラ科・落葉低木・ヤブデマリの園芸品種

アジサイに花が似ているが違う仲間であじサイより約1か月早く咲く。庭木にも好まれる。



街路樹などは植栽管理作業を行わなければ維持してゆくことは出来ない

# 植栽管理

公園や街路樹、学校や事業所から住居まで私たちの生活環境には多くの植栽があります。放つておいても植物は育ちますが色々問題が発生します。

世の中の問題や社会のニーズは人々の不便、不快、不安など負の要素を解消したい事から起因していると思います。植物は放つておいても勝手に成長しますが、私たちの生活環境の植栽は管理をしないと時に負の要素をもたらします。

伸び放題で何らかの支障になる枝葉、いつ落ちるか分からない枯枝、ボウボウの雑草などは植栽による負の問題です。問題解決には植栽管理作業をするしかありませんが、いつ、誰がするのでしょうか。

春から秋にかけて植物が旺盛に成長する時期は除草や刈込などの管理作業が多くなります。秋から冬にかけては雑草の伸びはほとんどないため除草などの作業は減少しますが、高木剪定など冬季に適した作業もあります。年間を通じた管理作業目安は裏面の表をご覧ください。

実施については自ら出来るに越したことはありませんが、内容や規模により弊社のような造園業者や植木屋に依頼することが多いようです。

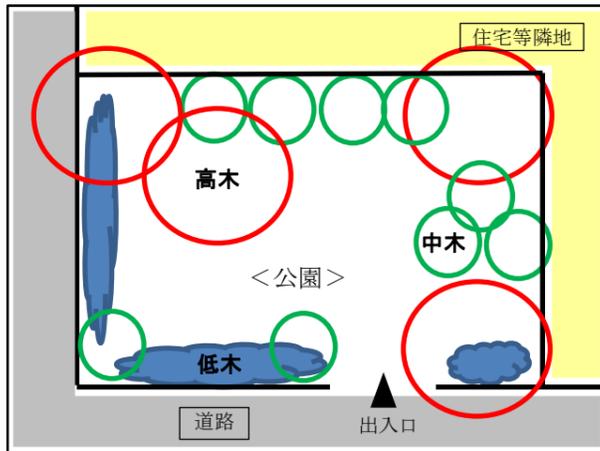
植栽は一度地面に植えたらその場所で成長し、動かすことは容易ではありません。過去に植えた樹木が大きくなり、植栽管理費用が削減され剪定等作業が見送られる事で、管理不良による枯枝の落下や倒木などによる人身や物損事故が時折あります。点検などにより危険な樹木等を早期に発見し、効率的な植栽管理作業の実施や実施しやすい環境を整えることが大切です。

## 樹木等管理の課題と対策

安全で快適な生活環境と大切なみどりの保全との両立にむけて

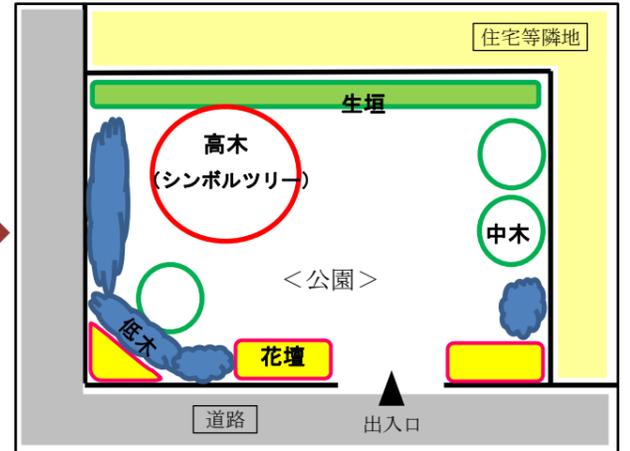
### 樹木の負のイメージ

隣地や道路への越境や街灯等への支障枝、出入口付近の見通しの悪化、日照や風通しの悪化、落ち葉、倒木や枯枝落下の懸念



#### 【問題点】

- 境界沿いに多い高木による越境枝や落ち葉
- 出入口や道路角の見通しが悪い
- 全体的に樹木が多く密度が高いため、個々の樹木の生育が悪くなる



#### 【改善点】

- 境界沿いの高木を中木や生垣への植替により、越境枝や落ち葉の軽減
- 出入口や道路角は花壇等による見通しの確保
- 過密を避けた、個々の樹木の健全育成

上の図は住宅地にありそうな架空の公園の樹木配置を想定しています。左側の図は色々樹木に関する問題があることを想定しています。右の図は、それを改善したイメージを示しています。既存の施設改修や新しく樹木を植栽する際に配慮した方が良く、植栽管理がしやすく、苦情の出にくい樹木等配置の一例です。



## 志村けんの木

去る3月29日に東京都東村山市出身の世代を超えて多くの方に慕われ、かつ、誰もが知る志村けん氏が新型コロナウイルスによる肺炎のため亡くなり、衝撃や悲しみを感じた方も多いかと思えます。

西武線の東村山駅東口には「志村けんの木」があることは知っていましたが、逝去のあと市の内外から多くの方がこの木の下に献花に訪れるようになり、市は急遽、献花台を設置しました。(献花台はウイルス感染防止観点から4/5をもって撤去済みです)

木の下への歩道にはこの3本の樹種と記念樹となった理由を記した看板があります。

生前、氏が東村山市を全国区にした功績を称え植樹された木が、哀悼の意を捧げ、故人を偲ぶ対象として存在し、生き続けます。

## 安全と環境と景観

樹木等植栽由来の事故が起きないよう日々考え、機会があれば危険な点などを伝え、相談していただき、最終的な処置の判断は管理者や所有者の方が決めることです。

最近、施設の外周部や線路脇など倒木等が発生した場合、重大な被害が想定される場所の樹木を健全なものも含め伐採される事例が多いようです。地球温暖化の影響により台風など気象災害が激甚化する中、事故を未然に防ぐ予防保全としての考え方も考えられます。

伐採により安全性は向上しますが景観の変化と緑陰やみどりの量の減少など環境貢献の価値は低下する場合があります。根元が腐って危険な木や間引きした方がよい場合などは伐採が適切ですが、樹高を下げて風圧軽減する剪定等により、残せる樹木は安全の確保と環境とのバランスを見極めながら保全したいものです。

# 植栽管理年間作業目安

作業時期は一般的な目安です。植栽の種類や気候、目的により変わりますので、詳しくはお問い合わせ下さい。

適期 ←→ 多少よい時期 ←.....→

作業内容\時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<b>樹木管理</b>												
常緑樹剪定		常緑樹は新芽が落ち着いてからがよい							常緑樹は寒い時期はよくない			
落葉樹剪定	花木は花芽形成前に剪定		夏期剪定(軽剪定)			落葉前だと落葉清掃が楽/冬期剪定(基本剪定)						
針葉樹剪定	針葉樹は時期によらず強剪定に弱いものが多い											
植込みや生垣刈込		花木は花芽形成前に剪定				花芽形成後の花木は、とびを取る程度に軽く刈込む						
植込み地除草												
施肥	春の芽だし肥や花後のお礼肥(速効性肥料)						寒肥は特に有効(遅効性肥料)					
病害虫防除	チャドクガ(ツバキ類)注意				サクラ、ツバキ類注意		冬季にはマシン油乳剤、石灰硫黄合剤が散布できる					
マツ手入れ	みどり摘み			もみ上げ(古葉落とし)、透かし剪定								
マツ枯れ防止	枯マツは4月までに伐採が特に有効					マツ枯れ予防剤注入は冬期に施工が必須						
<b>芝生管理</b>	※冬に休眠(冬枯れ)する、野芝や高麗芝などの日本芝の場合											
芝刈り	月1回		月2回		月1回(11月で刈り止め)							
除草剤散布						冬雑草発芽前			夏雑草発芽前			
施肥	←→ ←→ ←→ ←→ ←→ ←→ ←→ ←→ ←→ ←→ ←→ ←→											
手取り除草	←→ ←→ ←→ ←→ ←→ ←→ ←→ ←→ ←→ ←→									冬雑草は目立つので取りやすい		
芝張り(補植含む)	←.....→ ←.....→ ←.....→ ←.....→ ←.....→ ←.....→ ←.....→ ←.....→ ←.....→ ←.....→											
<b>裸地・そのた管理</b>												
草刈り・除草	最低年3~4回は行いたい											
落ち葉はき	新芽が出た後の常緑樹						落葉樹					
樹木点検	枯枝や危険木の早期発見			台風被害の予想点検			台風後の被害点検			大雪後の被害点検		

## 樹木点検で確認するポイント

植栽管理のはじめの一步は「よく見る」ことからです。異常の早期発見・処置はトラブルの防止にもなります。



**目視**  
先ず見ないことには始まりません。全体的な植栽の感じと個々の樹木の状態を見て行きます。



**枯枝、折れ枝等**  
発見次第、通路の下など落下する危険のあるものは先延ばしにせず直ちに除去するのが大切です。



**根元の揺れ**  
専門的な樹木診断では必ず実施していますが、点検でも何かしら異常を感じた場合、揺らして確認することがあります。



**キノコ**  
根元や幹から発生しているキノコは樹体内部の腐朽のサインです。内部の腐朽空洞等求める場合は、専門的な診断が必要になります。



**越境枝、支障枝**  
隣地等への越境、電線や車等に接触する枝等は剪定等処置が必要です。



**根元や幹の腐朽**  
被害の著しいものは倒木や幹折れのリスクが高く要注意です。